

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をさがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④互いの必要のために祈りましょう。

ディーヴォ ガイド



2025.5.26-6.1

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）
- ④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

29:1 第七の月には、その月の一日に聖なる会合を開かなければならない。あなたがたは、いかなる労働もしてはならない。これを、あなたがたにとって角笛が吹き鳴らされる日としなければならない。

29:2 あなたがたは、次のものを献げよ。

【主】への芳ばしい香りとして、全焼のささげ物、すなわち、若い雄牛一頭、雄羊一匹、傷のない一歳の雄の子羊七匹。

29:3 それに添える穀物のささげ物として、油を混ぜた小麦粉を、雄牛一頭につき十分の三エバ、雄羊一匹につき十分の二エバ、

29:4 七匹の子羊については、一匹につき十分の一エバ。

29:5 また、あなたがたのために宥めを行うには、罪のきよめのささげ物として、雄やぎ一匹。

29:6 これとは別に、新月祭の全焼のささげ物とその穀物のささげ物、常供の全焼のささげ物とその穀物のささげ物、および、それらに添える注ぎのささげ物、すなわち、規定による、【主】への食物のささげ物、芳ばしい香り。

29:7 この第七の月の十日には、あなたがたは聖なる会合を開き、自らを戒めなければならない。いかなる仕事もしてはならない。

29:8 あなたがたは、【主】への芳ばしい香りとして、全焼のささげ物、すなわち、若い雄牛一頭、雄羊一匹、一歳の雄の子羊七匹を献げよ。それらはあなたがたにとって傷のないものでなければならない。

29:9 それに添える穀物のささげ物については、油を混ぜた小麦粉を、雄牛一頭につき十分の

三エバ、雄羊一匹につき十分の二エバとする。

29:10 七匹の子羊については、一匹につき十分の一エバ。

29:11 さらに罪のきよめのささげ物として、雄やぎ一匹。これらは、宥めのための罪のきよめのささげ物、常供の全焼のささげ物とそれに添える穀物のささげ物、および、それらに添える注ぎのささげ物とは別である。

「角笛」のいけにえは、神がシナイ山で神のラッパの響きとともに、律法を授けたことを記念するものです。角笛は主の權威による宣言です。それは新約においては、律法の成就であるところの福音であり、また最後のさばきの宣言でもあります。

ですからそれは伝道に繋がるものです。私たちも福音の宣言することを忘れないようにしなくてはなりません。その気持ちになったから伝道を思い出すというのでは、自分の主観を頼った曖昧なものになってしまいます。神の命令のささげものように、福音の宣言を忘れないようにしましょう。

「罪のきよめのささげ物」も大切です。主に示されたら悔い改めますというのでは、これも気分次第になってしまいます。定期的に罪を言い表すくらいの敏感さがあってしかるべきでしょう。だから礼拝は大切なのです。毎日、また毎週というように、主への礼拝を確実なものとしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



27日 火曜

民数



29:12 第七の月の十五日には、あなたがたは聖なる会合を開かなければならない。いかなる労働もしてはならない。あなたがたは七日間、【主】への祭りを祝え。29:13 あなたがたは、【主】への芳ばしい香り、食物のささげ物として、全焼のささげ物、すなわち、若い雄牛十三頭、雄羊二匹、一歳の雄の子羊十四匹を献げよ。これらは傷のないものでなければならない。29:14 それに添える穀物のささげ物としては、油を混ぜた小麦粉を、雄牛十三頭については雄牛一頭につき十分の三エバ、雄羊二匹については雄羊一匹につき十分の二エバ、29:15 子羊十四匹については子羊一匹につき十分の一エバとする。29:16 さらに罪のきよめのささげ物として、雄やぎ一匹。これらは、常供の全焼のささげ物と、それに添える穀物のささげ物、および注ぎのささげ物とは別である。

29:17 二日目には、若い雄牛十二頭、雄羊二匹、傷のない一歳の雄の子羊十四匹、29:18 および、それらの雄牛、雄羊、子羊のための、それぞれの数に応じて定められた穀物のささげ物と注ぎのささげ物。29:19 さらに罪のきよめのささげ物として、雄やぎ一匹。これらは、常供の全焼のささげ物と、それに添える穀物のささげ物、および注ぎのささげ物とは別である。

29:20 三日目には、雄牛十一頭、雄羊二匹、傷のない一歳の雄の子羊十四匹、29:21 および、それらの雄牛、雄羊、子羊のための、それぞれの数に応じて定められた穀物のささげ物と注ぎのささげ物。

29:22 さらに罪のきよめのささげ物として、

雄やぎ一匹。これらは、常供の全焼のささげ物と、それに添える穀物のささげ物、および注ぎのささげ物とは別である。

29:23 四日目には、雄牛十頭、雄羊二匹、傷のない一歳の雄の子羊十四匹、29:24 および、それらの雄牛、雄羊、子羊のための、それぞれの数に応じて定められた穀物のささげ物と注ぎのささげ物。29:25 さらに罪のきよめのささげ物として、雄やぎ一匹。これらは、常供の全焼のささげ物と、それに添える穀物のささげ物、および注ぎのささげ物とは別である。

29:26 五日目には、雄牛九頭、雄羊二匹、傷のない一歳の雄の子羊十四匹、29:27 および、それらの雄牛、雄羊、子羊のための、それぞれの数に応じて定められた穀物のささげ物と注ぎのささげ物。29:28 さらに罪のきよめのささげ物として、雄やぎ一匹。これらは、常供の全焼のささげ物と、それに添える穀物のささげ物、および注ぎのささげ物とは別である。

29:29 六日目には、雄牛八頭、雄羊二匹、傷のない一歳の雄の子羊十四匹、29:30 および、それらの雄牛、雄羊、子羊のための、それぞれの数に応じて定められた穀物のささげ物と注ぎのささげ物。29:31 さらに罪のきよめのささげ物として、雄やぎ一匹。これらは、常供の全焼のささげ物と、それに添える穀物のささげ物、および注ぎのささげ物とは別である。

29:32 七日目には、雄牛七頭、雄羊二匹、傷のない一歳の雄の子羊十四匹、29:33 および、それらの雄牛、雄羊、子羊のための、それぞれの数に応じて定められた穀物のささげ物と注ぎのささげ物。29:34 さらに罪の

きよめのささげ物として、雄やぎ一匹。これらは、常供の全焼のささげ物と、それに添える穀物のささげ物、および注ぎのささげ物とは別である。

29:35 八日目には、あなたがたはきよめの集会を開かなければならない。いかなる労働もしてはならない。29:36 あなたがたは、【主】への芳ばしい香り、食物のささげ物として、全焼のささげ物、すなわち、雄牛一頭、雄羊一匹、傷のない一歳の雄の子羊七匹を献げよ。

29:37 それらの雄牛、雄羊、子羊のための、穀物のささげ物と注ぎのささげ物の数量は規定どおりである。29:38 さらに罪のきよめのささげ物として、雄やぎ一匹。これらは、常供の全焼のささげ物と、それに添える穀物のささげ物、および注ぎのささげ物とは別である。29:39 あなたがたは、あなたがたの例祭に、それらのものを【主】に献げなければならない。それらは、あなたがたの誓願のささげ物、または進んで献げるものとしての全焼のささげ物、穀物のささげ物、注ぎのささげ物および交わりのいけにえとは別である。」

29:40 モーセは、【主】がモーセに命じられたとおりを、イスラエルの子らに告げた。

これは仮庵の祭りで、荒野での寄留者であつたことを記念し、主の守りを感謝するものです。私たちも地上では寄留者です。主に忠実に行い、守りをいただきましょう。

①みこころ ②どんな思い ③適用 ④実践

30:1 モーセはイスラエルの諸部族のかしらたちに告げた。「これは【主】が命じられたことである。

30:2 男が【主】に誓願をするか、あるいは、物断ちをしようと誓う場合には、自分のことばを破ってはならない。すべて自分の口から出たとおりのことを実行しなければならない。

30:3 女が若くてまだ父の家にいるときに、【主】に誓願をするか、あるいは物断ちをする場合には、

30:4 その父が彼女の誓願、あるいは物断ちを聞いて、彼女に何も言わなければ、彼女のすべての誓願は有効となる。彼女の物断ちもすべて有効となる。

30:5 しかし、もし父がそれを聞いた日に彼女に反対するなら、彼女の誓願、あるいは物断ちはすべて無効としなければならない。彼女の父が彼女に反対するのであるから、【主】は彼女を赦される。

30:6 もし彼女が、自分の誓願、あるいは物断ちをしようと軽率に言ったことが、まだその身にかかっているうちに嫁ぐ場合には、

30:7 夫がそれを聞き、聞いた日に彼女に何も言わなければ、彼女の誓願は有効である。彼女の物断ちも有効となる。

30:8 もし夫がそれを聞いた日に彼女に反対すれば、夫は、彼女がかけている誓願や、物断ちをしようと軽率に言ったことを破棄することになる。そして【主】は彼女を赦される。

30:9 しかし、やめや離縁された女の誓願については、すべての物断ちが当人に対して有効となる。

30:10 もし女が夫の家で誓願をするか、ある

いは、誓って物断ちをする場合には、

30:11 夫がそれを聞いて、彼女に何も言わず、反対しないなら、彼女の誓願はすべて有効となる。彼女の物断ちもすべて有効となる。

30:12 もし夫が、そのことを聞いた日にそれらを破棄してしまうなら、その誓願も物断ちも、彼女の口から出たすべてのことは無効となる。彼女の夫がそれを破棄したのだから、【主】は彼女を赦される。

30:13 すべての誓願も、自らを戒めるための物断ちの誓いもみな、夫がそれを有効にすることができるし、それを破棄することもできる。

30:14 もし夫が日々、その妻に全く何も言わなければ、夫は彼女のすべての誓願、あるいは、すべての物断ちを有効にする。夫がそれを聞いた日に彼女に何も言わなかったのだから、彼はそれを有効にしたのである。

30:15 もし夫がそれを聞いた後、それを破棄するなら、夫が彼女の咎を負う。」

30:16 これらは、夫とその妻との間、父とまだ父の家にいる若い娘の間とに関して、【主】がモーセに命じられた掟である。

主への誓願は大切なものですから、それを果たさなければなりません。それは主への責任なのです。折りのときに主に約束したことで、果たしていないことはないでしょうか。

しかしイスラエルの女性など、自分に権限のない人の場合は、その権威ある者の意向によって左右されてしまいますから、誓願を果たせない場合でも、無効となってその責任から解かれるということなのです。

これは信仰の奉仕なども同じで、自分では権限のない人については、主もその事情を知ってくださるのです。また信仰の行いであっても、自分の権限を越えてしまう場合は、よく考え直さな

ければなりません。主は秩序の神でもあり、また与えられた範囲でも、私たちは主にささげる栄光を表わすことができるからです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



29日 木曜

民数



モアブの草原の宿営にいる、モーセと祭司エルアザルとイスラエルの会衆のところに、その捕虜や分捕り物、略奪品を携えてやって来た。

- 31:1 【主】はモーセに告げられた。
31:2 「あなたは、イスラエルの子らのために、ミディアン人に復讐を果たせ。その後で、あなたは自分の民に加えられる。」
31:3 そこでモーセは民に告げた。「あなたがたのうち、男たちは戦のために武装せよ。ミディアン人を襲って、ミディアン人に【主】の復讐をするためである。
31:4 イスラエルのすべての部族から、部族ごとに千人を戦に送らなければならない。」
31:5 それで、イスラエルの分団から、部族ごとに千人、すなわち、合計一万二千人の、戦のために武装した者たちが選ばれた。
31:6 モーセは部族ごとに千人を戦に送った。また彼らとともに、祭司エルアザルの子ピネハスを、聖なる用具と吹き鳴らすラッパをその手に持たせて、戦に送り出した。
31:7 彼らは【主】がモーセに命じられたとおりに、ミディアン人に戦いを挑み、その男子をすべて殺した。
31:8 その殺された者のほかに、彼らはミディアンの王たち、すなわち、エウィ、レケム、ツル、フル、レバの五人のミディアンの王たちを殺した。また、ベオルの子バラムを剣で殺した。
31:9 イスラエル人は、ミディアン人の女たちと子どもたちを捕らえ、またその動物、家畜、財産をことごとく奪い取り、
31:10 彼らの居住していた町々や陣営をすべて火で焼いた。
31:11 そして人でも動物でも、略奪したものや分捕ったものすべてを取り、
31:12 エリコをのぞむヨルダン川のほとりの

イスラエルの戦いはこれまでは、相手から仕掛けられたものでしたが、この戦いはこちらからのものでした。これはきよめのための戦いです。25章において、イスラエルがミデヤンの女性たちと淫行を行ったからです。

イスラエルの歴史を見ますと、異教の女と関係を持つならその偶像に仕えるようになります。この戦いは無慈悲のように感じますが、そうしないとイスラエルは女性関係から偶像に走り、本当の神を捨ててしまうことが目に見えていたのです。

命は大切ですが、永遠の命はそれよりもはるかに大切なものです。これほどの神様からの警告があるのですから、異性関係が不信仰の始まりにならないように、肝に銘じましょう。また異性でなくても、生活や心の中に偶像がないか、今一度探ってみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



30日 金曜

民数

31:13 モーセと祭司エルアザル、およびすべての会衆の上に立つ族長たちは出て行って、宿営の外で彼らを迎えた。

31:14 モーセは、軍勢の指揮官たち、すなわち戦いの任務から戻って来た千人の長や百人の長たちに対して激怒した。

31:15 モーセは彼らに言った。「女たちをみな生かしておいたのか。」

31:16 よく聞け。この女たちが、バラムの事件の折に、ベオルの事件に関連してイスラエルの子らをそそのかし、【主】を冒瀆させたのだ。それで主の罰が【主】の会衆の上に下ったのだ。

31:17 今、子どもたちのうちの男子をみな殺せ。男と寝て男を知っている女もみな殺せ。

31:18 男と寝ることを知らない若い娘たちはみな、あなたがたのために生かしておけ。

31:19 あなたがたは七日間、宿営の外にとどまれ。あなたがたでも、あなたがたの捕虜でも、人を殺した者、あるいは刺し殺された者に触れた者はだれでも、三日目と七日目に身の汚れを除かなければならない。

31:20 衣服、皮製品、やぎの毛で作ったもの、木製品はすべて汚れを除かなければならない。」

31:21 祭司エルアザルは、戦いに行った兵士たちに言った。「【主】がモーセに命じられたおしへの掟は次のとおりである。

31:22 ただ、金、銀、青銅、鉄、すず、鉛など、

31:23 すべて火に耐えるものは、火の中を通せば、きよくなる。ただし、それは汚れを除く水で汚れを除かなければならない。火に耐



えないものはみな、水の中を通さなければならない。

31:24 また、あなたがたは七日目に自分の衣服を洗うなら、きよくなる。その後で、宿営に入ることができる。」

イスラエルの軍勢は戦いに勝ちましたが、結局女性たちを生かしておいて、連れ帰ってしまいました。この女性たちが「イスラエルの子らをそそのかし」淫行と偶像礼拝に誘ったのですから、これでは戦いに何の意味もありません。人は、主に従っているようで、実のところ自分のために何かを残しつつ、結局は主に従っていないということがあるものです。私たちも自分を省みる必要があります。

分捕り物もきよめられなくてはなりません。これらは主のものであって、イスラエルのものではないのです。もしも人の自由になってしまうなら、それは人の欲望のために用いられます。主の戦いが人の欲望のための戦いになってしまうのです。それでは異教の侵略戦争と同じになってしまいます。

この世の中でも同じです。私たちが勝利して得た利得でも、それは主によって聖別されなくてはならないのです。勝てば良いというわけではありません。主に1度ささげて、主のものとして、主のために用いましょう。主は愛をもって最善にしてください。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



31日 土曜

民数



31:25 【主】はモーセに言われた。
31:26 「あなたと祭司エルアザル、および会衆の氏族のかしらたちは、人でも家畜でも捕らえて分捕ったものの総数を調べ、
31:27 その分捕ったものを、戦に出た者たちと全会衆の間で二分せよ。
31:28 戦に出た戦士たちからは、人、牛、ろば、羊の中からそれぞれ五百のうち一を、
【主】への貢ぎとして徴収せよ。
31:29 彼らが受けるその半分の中から取って、
【主】への奉納物として祭司エルアザルに渡さなければならぬ。
31:30 イスラエルの子らが受けるもう半分の中から、人、また牛、ろば、羊、それぞれの家畜から、それぞれ五十のうち一を取り出して、
【主】の幕屋の任務に当たるレビ人に与えなければならぬ。」
31:31 そこでモーセと祭司エルアザルは、
【主】がモーセに命じられたとおりに行つた。
31:32 従軍した人たちが奪った戦利品を除く分捕り物は、羊六十七万五千匹、
31:33 牛七万二千頭、
31:34 ろば六万一千頭、
31:35 人は、男と寝ることを知らない女が全部で三万二千人であった。
31:36 この半分が戦に出た者たちの分け前で、羊の数は三十三万七千五百匹。
31:37 その羊のうちから【主】への貢ぎは六百七十五匹。
31:38 牛は三万六千頭で、そのうちから
【主】への貢ぎは七十二頭。
31:39 ろばは三万五百頭で、そのうちから
【主】への貢ぎは六十一頭。

31:40 人は一万六千人で、そのうちから
【主】への貢ぎは三十二人であった。
31:41 モーセは、【主】がモーセに命じられたとおりに、その貢ぎ、すなわち、【主】への奉納物を祭司エルアザルに渡した。
31:42 モーセが戦に出た者たちに折半して与えた残り、すなわち、イスラエルの子らのものであるもう半分、
31:43 すなわち会衆のものであるもう半分は、羊三十三万七千五百匹、
31:44 牛三万六千頭、
31:45 ろば三万五百頭、
31:46 人は一万六千人であった。
31:47 モーセは、イスラエルの子らのものであるもう半分から、人も家畜も、それぞれ五十のうち一を取り出して、
【主】がモーセに命じられたとおりに、
【主】の幕屋の任務に当たるレビ人に与えた。
31:48 すると、軍団の指揮官たち、すなわち千人の長、百人の長たちがモーセのもとに進み出て、
31:49 モーセに言った。「しもべどもは、部下の戦士たちの総数を数えました。私たちのうち一人も欠けていません。
31:50 それで、私たちは、各自が手に入れた金の飾り物、すなわち腕飾り、腕輪、指輪、耳輪、首飾りなどを【主】へのささげ物として持って来ました。【主】の前で私たち自身のための有めとしたいのです。」
31:51 モーセと祭司エルアザルは、彼らから金を受け取った。それはあらゆる種類の細工を施した物であった。
31:52 千人の長や百人の長たちが【主】に献げた奉納物の金は、全部で一万六千七百五十シケルであった。

31:53 従軍した人たちは、それぞれ、戦利品を自分のものとした。
31:54 モーセと祭司エルアザルは、千人の長や百人の長たちから金を受け取り、それを会見の天幕に持って行き、
【主】の前における、イスラエルの子らのための記念とした。

主は戦利品を分かち合うように命じ、またささげるように命じました。分かち合いとささげることが、主の共同体のあり方であり、その後も勝利し続けることの秘訣です。

戦いの後に「一人も欠けて」いないというのは、まさに主の恵です。私たちも、主の戦いであるなら、恐れずに参戦してゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



32:1 ルベン族とガド族は、多くの家畜を持っていた。それは、おびたしい数であった。彼らがヤゼルの地とギルアデの地を見ると、その場所は家畜に適した場所であった。
32:2 そこでガド族とルベン族は、モーセと祭司エルアザル、および会衆の上に立つ族長たちのところにきて、次のように言った。
32:3 「アタロテ、ディボン、ヤゼル、ニムラ、ヘシュボン、エルアレ、セバム、ネボ、ベオン、
32:4 【主】がイスラエルの会衆の前で打ち滅ぼされたこれらの地は、家畜に適した地です。そして、しもべどもには家畜がいます。」
32:5 また言った。「もし、私たちの願いがかないますなら、どうか、しもべどもがこの地を所有地として賜りますように。私たちにヨルダン川を渡らせないでください。」
32:6 モーセはガド族とルベン族に答えた。「あなたがたの兄弟たちは戦いに行くのに、あなたがたはここにとどまるというのか。
32:7 どうして、イスラエルの子らの意気をくじいて、【主】が与えてくださった地へ渡らせないようにするのか。
32:8 あなたがたの父たちも、私がカデシュ・バルネアからその地を調べるために遣わしたとき、そのようにふるまった。
32:9 彼らはエシュコルの谷まで上って行って、その地を見たとき、イスラエルの子らの意気をくじいて、【主】が与えてくださった地に入って行かないようにした。
32:10 あの日、【主】は怒りに燃え、誓って言われた。
32:11 『エジプトから上って来た者たちで二

十歳以上の者はだれも、わたしがアブラハム、イサク、ヤコブに誓った地を見ることはない。わたしに従い通さなかったからである。
32:12 ただ、ケナズ人エフンネの子カレブと、ヌンの子ヨシュアは別である。彼らが【主】に従い通したからである。』
32:13 事実、【主】の怒りはイスラエルに向かって燃え上がり、主は彼らを四十年の間、荒野をさまよわせ、【主】の目に悪であることを行なったその世代の者たちは、ついに、みな死に絶えた。
32:14 そして今、あなたがたが、罪人の子らとしてあなたがたの父たちに代わって立ち上がり、イスラエルに対する【主】の燃える怒りを増し加えようとしている。
32:15 あなたがたが背いて主に従わないなら、主は再びこの民をこの荒野に見捨てられる。そしてあなたがたは、この民全体に滅びをもたらすことになるのだ。」

ルベン族とガド族は自分たちに家畜が多いことから、都合よくヨルダン川の手前を所有しようとしてしまった。これに対してモーセは、「イスラエルの子らの意気をくじいて」しまう行為であると非難しました。
彼らの行為は自分たちの都合を優先するもので、神のことも人々のことも考えていませんでした。共同体にこのような価値観があると、前進できなくなります。どんな局面でも、自己中心や自分の都合優先がないか、自分の行いや判断や主張を考えてみましょう。「主の怒りが燃え」上がることをないようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

